

執筆者紹介

むらい よしお
室井 義雄 本学経済学部教授

〈編集後記〉

社研月報4月号(No. 622)は室井義雄所員の「ナイジェリアにおける石油戦争——国家・少数部族・環境汚染——」の単独掲載である。2013年末現在、アフリカ最大、OPEC第6位、世界第12位の産油国であるナイジェリアは、今世紀に入って15年前後にも及ぶ「石油戦争」を続けてきたという。その背景には、三大部族と少数部族、石油収入の再配分方式、環境破壊と貧困、歴代の政権担当者による構造的汚職などの諸問題が横たわっているという。それにしても本題からは遠く離れるが、いささか興味深かったのは、ナイジェリア武装集団のリーダーたちの個人的動向にまで配視されていた点である。彼らは1938年～1941年生まれであったというから、日本でいえば1960年安保闘争を主導した新左翼草創期のメンバーとほぼ同年代ということになる。だが、その後の1970年前後における新左翼的な武装革命闘争の記憶が日本では遙か彼方に押しやられた21世紀になってから、ナイジェリアでは「石油戦争」が繰り広げられていたのである。世界史の同時性ととも、時間の流れ方の重層性にも改めて思いを致さざるをえなかった所以である。 (s/n)

2015年4月20日発行

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

(発行者) 村上俊介

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561
